

希学園 第407回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第407回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年4月12日実施)	https://vimeo.com/1181992186/8604f108ab

1

B
I
II
ア
III
ウ
(記述題)

ウ
与えている

物もいる。
イ
エ

現代に
僕らが

大
小
ず
食

定期
意図
単位

2

肉体
残念
真実

ぶと
手
はず
(記述題)

ふたりいればできる

小さな指さき
つぎの

1

大量の人工肥料によつて、ある種の生物の個体数が減る
という問題。

2

花がかくされたり美しくない
小さな世界をみつけける
(同意可)

配点	
1 9・10 2 1・2	各2点×12=24点
1 3 2 3	各6点×2=12点
その他	各4点×16=64点
100点	

① (伊勢武史『生態学者の目のツケドコロ』より)

1 B []だけが例示の「たとえば」、他はすべて逆接の「ところが」である。

2 ア「いわば」は、たとえをあげるときによく用いられる。 []Ⅱの直後に「家計簿みたいなもの」とある。イ「ちなみに」は何か付け加えて述べるときに用いられる。

3 線①は「科学の進歩は農業に大きな変化をもたらした」だが、問いは「どのような問題をもたらしましたか」である。したがって答えるのは、科学の進歩によってもたらされた農業の変化そのものではなく、その結果としての問題点である。もちろん、字数から考えても、農業の変化の内容である「人工肥料」にもふれておきたい。

4 線②は「素朴に考えるとそうだ」で、この「そう」は、直前の「自然界の生物たちも窒素肥料の恩恵にあずかれるのではないだろうか」をさしている。この考え方のどこが「素朴」なのかという問いであり、この場合の「素朴」はほめ言葉ではなく、考え方が単純だということである。直後の「そして事実……」は「そう」がさす考え方を支持する内容なので、続く段落の「しかし」以下に注目する。

5 「人間は []③」という意識は持つていてほしい」はこの文章の主張ともいえる部分である。冒頭からくり返し述べられている筆者の考えを入れればよい。

6 「個体数を減らす」に続く部分ということは、生物に害があるという内容が書かれているところであろう。本文に「マイナスの影響」という言葉があった。すなわち「害」である。

7 アについて、「マメ科の植物」が「窒素固定の能力を持っている」とはいえない。「この特集能力を持った微生物と共生関係にある」だけである。したがって「微生物の乏しい場所」は好ましくないだろう。イについては []Ⅲをふくむ段落に「人工肥料が使われだす前は」「自然界の窒素循環にあまり影響を与えていなかった」とはっきり書かれている。ウについて、 []Dではじまる段落には「工場で窒素肥料がつくられるようになったことが『農業革命』の一因である」と書かれている。「川をせき止めたり人工的な草原をつくったり」というのは、第二段落にあるが、それ以前の話である。エについて、後ろから二つめの段落に「僕は、オーガニックなものしか食べないというわけではない」と書かれている。

8 段落分けの問題の有無にかかわらず、つねに話題の移り変わりは意識して読み進めたい。肥料の問題についての話が第二の部分、心がけについて述べた部分が第三の部分である。

9 X「大なり小なり」は「程度の差こそあれ」、Y「恩恵にあずか(れ)る」は「恩恵を受ける」、Z「割を食って」は「損をこうむる」という意味である。

10 a「期」の左側、b「図」の内側、c「単」の上と下の形に気をつけよう。

② (新美南吉『花をうめる』より) ※問題作成の都合上一部表記を改めています。

1 a「肉」の内側の形、b「念」の「今」の形、c「真」の画数に気をつけよう。

2 X「かぶとをぬいだ」は「降参した」という意味。Y「手にとるように」は、はっきり見えたりわかったりするようすを表す。Z「息をはずませ」とは、息づかいがはげしいようすである。

3 「興味」という言葉が——線③の次の行に出てくる。これに続く部分が「魅力」の説明になっている。はじめの通読時に気づいておきたい。

4 []②からたどって答えに行き着くのは困難である。通読して「ふたりにいれればできると私はいったが」にさしかかったときに、どこのことかと意識しておきたい。

5 「花のかくされた穴」こそ、この遊びの魅力の中心であったとされているため、いろいろな言葉でこの「穴」は表現されていた。通読時に意識できていることが望ましい。

6 「花や葉を」「土の中に土をもつてうめ」るのは対照的なことをしたところをさがせばよい。

7 「砂粒ほどの南京玉」が「星」にあたる。

8 ツルや林太郎とその遊びをしてから何日もたっているのだから、当然 []⑥と考えていいはずなのである。

9 ——線⑦をふくむ一文に「だれか他の者にみつけ出されると困る」と書かれていた。

10 みられたくないところをみられたということである。

11 「心についていたもの」とは何かをまず考えたい。「心」とあるので、気持ちを表現したところをさがすと、——線⑦の次の段落から「その花があるという思い」「希望」「焦燥」などが見つかる。これらがあるかぎり、さがすことをやめられないのである。